

2025年度入試

**数 学 編**

# 関西大学(文系学部)

〔コメント〕 解答形式は、文系学部は結果のみが2問、記述式が1問。総合情報学部は結果のみが2問、記述式も2問。

・文系学部は図形と方程式、数列、微分法・積分法からの出題頻度が高く、次に対数関数、三角関数、指数関数、2次関数など関数系から多くの日程で出題されている。関数系の出題は単独ではなく、他分野との融合である。他には、ベクトル、確率、複素数と方程式、整数、式と証明からの出題を見かける。出題内容は微分法・積分法では「接線」、「面積」、数列では「和の計算」、対数関数、三角関数では置換により2次関数や3次関数の問題に変わっている。図形と方程式では「円と直線」、「領域」から出題されている。「3次関数の最大最小」、「極値」も頻出である。また、近年、細かい誘導や、解く上でのヒントがあるのでそれらをうまく利用することが重要である。

・総合情報学部の頻出分野は微分法・積分法、ベクトル、図形と方程式、場合の数と確率、数列である。微分法・積分法で与えられた関数は2次関数、3次関数のどちらも絶対値や定数を含んでいるので、この種の問題には慣れておきたい。問題のレベルは文系学部よりやや高いが、標準レベルの範囲である。また、どこかの日程で証明問題が出題されるので、慣れておく必要がある。

今年度、見かけたのは『発展』である「3次方程式の解と係数の関係」である。ただし、与えられた3次関数が「 $(x-\alpha)(x-\beta)(x-\gamma)$ 」が成り立つ」と誘導されているので問題は無いが、知っている方が有利であることは間違いない。

ゴシックは結果のみ、他は記述式

試験時間 60分 (総合情報 90分)

数学 I A II B、C (ベクトル)	I	II	III	IV
全学日程 1 (2/1)	微分法・積分法(放物線の曲線外の点を通る接線、接線と放物線で囲まれた図形の内積)	高次方程式( $x-1=s$ の置換後、相反方程式)	対数関数・2次関数(2つの対数を解にもつ2次方程式、2解の和の値の範囲)	
全学日程 1 (2/2)	図形と方程式・三角関数(点と直線の距離の2乗の和、倍角公式、最小値)	平面ベクトル(交点の位置ベクトル) 整数(2数の関係式を満たす整数)	数列(分数で表された数列の和、部分分数の利用、和の最大)	
全学日程 1 (2/3)	平面ベクトル(内分点の位置ベクトル、円周上の点の位置ベクトル)	三角関数( $\sin x + \cos x = t$ の置換) 微分法(3次関数の最大・最小)	数列・集合(3の倍数と5の倍数の和集合、共通部分、和)	
全学日程 2 (2/5)	対数関数(置換により3次関数) 微分法(極値、3次方程式の解の個数)	図形と方程式(定数を含む2円の交わる条件、2交点を通る直線)	確率(2人が交互にさいころを投げて出た目の数の和が定数以上になった方が勝つゲーム)	
全学日程 2 (2/6)	図形と方程式(連立不等式の表す2円による領域、1次式の最大最小)	微分法・積分法(3次関数、極値、接線と曲線で囲まれた図形の内積)	図形の性質・図形と計量(方べきの定理、接弦定理、余弦定理、正弦定理)	
全学日程 2 (2/7)	数列・2次関数(解と係数の関係、2解の $n$ 乗の差の数列、漸化式)	2次関数(絶対値、定数を含む2次方程式が異なる2実数解をもつ)	平面ベクトル・積分法(内積、条件を満たす3点の決定、3点を通る放物線と直線で囲まれた図形の内積)	
総合情報 (全学日程 1) (2/1)	積分法(定数を含む3次関数のグラフと放物線の共有点、囲む2つの部分の内積が等しい条件)	式と証明・微分法(3次方程式の実数解、個数の証明) 整数(素数の利用)	場合の数と確率(将棋盤上の「銀」のコマの移動、何回かの操作後のコマの位置)	平面ベクトル(絶対値を含む2つのベクトルの条件式から、2つのベクトルの和の絶対値の最大最小)
総合情報 (全学日程 1) (2/3)	三角関数(絶対値を含む関数、 $\sin x + \cos x = t$ の置換で3次関数) 微分法(3次関数の最大・最小)	対数関数(桁数、最高位の数) 整数(余りによる分類)	確率(さいころの目に1を加えた値を $a, b, c$ 、 $X = \log_a b$ 、 $Y = \log_a c$ の各種関係式を満たす確率)	図形と方程式(直線で囲まれた部分の領域)『2種類の仕事に内容が異なる3人がかかわる』
総合情報 (独自日程) (2/4)	図形と方程式(2つの放物線の共通接線の係数を座標とする点の領域、面積、関係式のとりうる値の範囲)	数列( $n$ を含む漸化式、2つの数列の大小関係)	数列・整数(3の倍数、3で割ると2余り5で割ると3余る数、互いに素の個数、記数法)	高次方程式(3次方程式の解と係数の関係の利用、対称式)
総合情報 (全学日程 2) (2/6)	平面ベクトル(正六角形、内分点の位置ベクトル、頂点から線分に下した交点の位置ベクトル)	数と式(直方体の表面積と対角線の長さから3辺の関係式) 微分法(体積の最大値)	数列(濃度の異なる2種類の食塩水、中身を繰り返し入れ替えたときのそれぞれの濃度の関係式)	微分法・平面ベクトル(定数を含む3次方程式の実数解、解と係数の関係の利用、対称式、内積、面積)

# 関西学院大学(文系学部)

〔コメント〕 解答形式は大問1、2が結果のみで解答個数はそれぞれ合計7個、大問3が記述式である。大問別に出題範囲がほぼ固定されている。

大問1 (1)数と式、2次関数、図形と計量、データの分析から出題(数学Ⅰ)

(2)場合の数・確率から出題(数学A)

大問2 (1)指数・対数関数、三角関数、図形と方程式、複素数と方程式、式と証明から出題(数学Ⅱ)

(2)数列、ベクトルから出題(数学B)、(数学C)

大問3 微分法・積分法から出題(数学Ⅱ)

2/5 英数日程以外はすべて標準レベルの出題である。

出題される関数や方程式は文字係数や定義域が変数であったり、絶対値を含んでいることが多い。2次関数では共有点の個数、最大最小、解の配置、平行移動、図形と計量では公式の利用、特徴的な四面体、データの分析では代表値、分散、相関係数、確率ではカードや玉を取り出すものや道順、条件付き確率、図形と方程式では方程式・不等式の表す領域と1次式の最大最小、ベクトルでは2直線の交点、内積から線分の比、長さ、面積、数列では和の計算、漸化式、微分法では接線、最大最小、極値、積分法では定積分含む関数、3次関数の曲線と放物線や直線で囲まれた部分の面積を求めさせる問題が出題されている。つまり、すべて定型問題といえる。

ゴシックは結果のみ、他は記述式

試験時間 60分 (英数日程 90分)

数学ⅠAⅡB、C(ベクトル)	1	2	3
全学部日程 (2/1)	(1)2次関数(放物線がx軸と共有点をもつ条件、共有点のx座標がともに1以上) (2)確率(3個のさいころの目の最大値の条件と条件付き確率)	(1)図形と方程式(円と接線、接点、囲まれた図形の面積) (2)数列(等差数列、絶対値の和、 $\Sigma$ 計算)	微分法・積分法(接線、放物線と定数を含む直線で囲まれる部分の面積、2力所の部分の面積の和の最小)
全学部日程 (2/2)	(1)図形と計量(3辺の長さが既知の三角形の面積、外接円の直径) (2)確率(0,0,1,2,3,4,5から選んだ3数の和の各種条件)	(1)高次方程式(3次方程式、因数分解) 2次関数(実数条件、解の配置) (2)空間ベクトル(点と直線の距離、直線と球面上の点の関係)	図形と方程式・微分法・積分法(定数を含む円と放物線が同点における共通接線をもつ、円と放物線と直線で囲まれる部分の面積)
学部個別日程 文・法・商・人・総 (2/3)	(1)2次関数(定数を含む2次関数の閉区間の最大最小、最大最小の差から定数の決定) (2)確率(1~8から取り出された5個の数の最大最小の条件)	(1)三角関数(球に外接する直円錐の体積、媒介変数 $\theta$ で表された体積の最小値) (2)平面ベクトル(三角形2辺との中線の長さから内積、交点の位置ベクトル)	微分法・積分法(接線、元の放物線と平行移動した放物線の共通接線で囲まれた部分の面積)
学部個別日程 神・社・済・国・教 (2/4)	(1)図形と計量(四面体の1面の面積、辺を軸とした点の回転、体積) (2)確率(赤2個、白3個、黒1個の玉を並べたときの赤2個の間の白の個数)	(1)図形と方程式(放物線と直線で囲まれた領域の点の関係式の条件を満たす) (2)数列(等差数列と等比数列の共通に含まれる項の数列)	微分法・積分法( $f(x)$ 、 $g(x)$ が互いの定積分で表された2式から関数の決定、面積)
英数日程 (2/5)	(1)図形と計量(3辺と1角が既知の四面体の他の辺と1面の面積、体積から頂点と平面の距離) (2)確率(赤3個、白3個、黒3個の9個から3個取り出したときの赤玉の個数)	(1)図形と方程式(定数を含む円の中心の軌跡、y軸と交わる条件、他の円と外接) (2)数列( $S_n, a_n, n$ の関係式から $a_{n+1}$ と $a_n$ の関係、 $b_n = a_n + \gamma n$ が等比数列)	微分法(絶対値、定数を含む3次方程式、異なる4個の実数解をもつときの定数の範囲、最大の解の値の範囲)
学部個別日程 文・法・商・人・総 (2/6)	(1)2次関数(定数を含む放物線、すべての象限を通る、平行移動した放物線の各種条件) (2)確率(座標平面上の同点Pがさいころの出た目にしたがって与えられた規則で移動)	(1)対数関数(置換により定数を含む2次関数) (2)平面ベクトル(内分点と交点の位置ベクトル、内積と線分の長さから位置ベクトル)	微分法(定数を含む3次関数と2次関数の曲線上の同点による接線をもつ) 積分法(囲まれた部分の面積)
学部個別日程 神・社・済・国・教 (2/7)	(1)データの分析(平均値と分散が既知の2つのデータ、新たな変量の2つのデータの共分散、相関係数) (2)確率(正12n角形の異なる3頂点を頂点とする三角形、正三角形、直角三角形、直角二等辺三角形)	(1)三角関数(置換により2次方程式) (2)空間ベクトル(3辺と3角が既知の四面体、内積計算、直線と平面の交点の位置ベクトル)	微分法(絶対値を含む2次関数の最小値、接線) 積分法(曲線と接線で囲まれた部分の面積)

# 同志社大学(文系学部)

〔コメント〕 解答形式は大問Ⅰが結果のみで解答個数は合計10個、大問Ⅱ、Ⅲが記述式である。  
 頻出分野は微分法・積分法、場合の数・確率、図形と方程式である。以前は数列、ベクトルの出題も多く見られたが今年度はそれらに代わりデータの分析が加わってきた。他の分野では三角関数、対数関数、図形の性質からも出題されている。  
 大問Ⅰは昨年とほぼ同じく、ほとんどの日程で小問が3～4問出題されている。1問あたりの分量は少なくなっているが、分野が異なるので頭の切り替えを要するため全体の難度は変わっていないだろう。小問といっても1, 2問は時間を要する問題が含まれており、場合の数と確率の問題が必ず出題されている。また、データの分析では「変数の変換」に関する出題があり、微分法・積分法では「3次関数の曲線と直線の交点」などが出題されているので対策が必要である。大問Ⅱ、Ⅲも典型的な問題が少なく、設問が多く、また計算量が多い問題が中心となっており、文系学部の問題にしてはややレベルが高いと言える。

ゴシックは結果のみ、他は記述式

試験時間 75分

数学ⅠAⅡB、C(ベクトル)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
全学部日程 (2/5)	(1) 場合の数(不等式を満たす3整数の組の数) (2) 高次方程式(剰余の定理) (3) データの分析(2つのデータの平均、分散から2つのデータの合計の平均、分散)	数列(半径 $r_n$ の円に内接する正三角形、その正三角形に内接する半径 $r_{n+1}$ の円、 $r_n$ と $r_{n+1}$ の関係)	図形と方程式(絶対値、定数を含む不等式で表される円の領域、直線と円で囲まれる領域の面積の最大最小)
学部個別日程 文・済 (2/6)	(1) 微分法、積分法(定数を含む放物線の2種の放物線の共通接線、囲まれた部分の面積) (2) 整数( $n$ と $n$ の階乗で表された数が整数となる $n$ の最大値) (3) 確率(4人がさいころを投げて出た目の各種条件)	積分法(端点が定点と動点の線分と放物線で囲まれた2つの部分の面積の差の最大値最小値)	対数関数(対数不等式を満たす領域) 三角関数(半角の公式の利用) 図形と方程式(円と直線で囲まれた部分の面積)
学部個別日程 政策・文情・スポーツ健康 (2/7)	(1) 確率(3人じゃんけんを3回、あいこや勝つ回数による確率、条件付き確率) (2) 二項定理(展開式の指定された項の係数)	三角関数(3倍角の公式を利用して置換) 微分法(置換された3次関数の最大最小)	データの分析(平均値、分散が既知の2つのデータから新たな変量のデータの平均値、分散、新たに加えた3つのデータのうちの2つのデータの平均値、分散、相関係数、共分散)
学部個別日程 法・グローバルコミュニケーション (2/8)	(1) 数列( $n, a_n, a_{n+1}, S_n$ の関係式から $a_{n+2}$ と $a_n$ の関係式) (2) 確率(1～6から3回選び、最小値2最大値5) (3) ベクトル(三角形の頂点と内心を結ぶ直線、交点の位置ベクトル) (4) 積分法(絶対値、定数を含む定積分計算)	確率(白玉 $m$ 個、赤玉 $n$ 個から玉を取り出すとき、2番目に取り出した玉の色、白玉 $m$ 個、赤玉10個から10個の玉を取り出すとき赤玉が4個となる確率の最大値)	図形と方程式、図形の性質(円の接線、方べきの定理の利用、円と直線、2共有点の中点の軌跡)
学部個別日程 神・商・心理 ・グローバル地域 (2/9)	(1) 図形の性質(直角三角形の内接円の半径) (2) 微分法(接線、接点から3次関数の決定、極値、最大値) (3) 確率、数列(3人のうち2人がカードを交換、指定のカードを持っている確率、 $a_n, b_n, c_n$ の関係式から漸化式)	2次関数(絶対値を2つ含む2次関数の最小) 積分法(絶対値を含む2次関数の定積分計算)	データの分析(データを昇順に並べたデータ $a_i$ 、降順に並べたデータ $b_i$ から新たな2つの変量の平均値、分散、共分散)
学部個別日程 社 (2/10)	(1) 図形と方程式(点と直線の距離、相似形) (2) 指数関数(置換で3次関数) 微分法(3次関数の最小値) (3) 確率(2つのさいころの目で $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ は1または0が決まる、6数の積または和などの関係式を満たす確率)	2次関数(絶対値を含む2次関数の $a \leq x \leq a+1$ における最大値)	空間ベクトル(四面体の3辺の長さとして2つのなす角が既知、2つのベクトルの内積の値の範囲の証明)

# 立命館大学(文系学部)

〔コメント〕 解答形式は大問Ⅰ、Ⅱが結果のみ、大問Ⅲが記述式である。

数学ⅠAⅡBおよびC(ベクトル)のすべての分野から出題されているのは変わらない。

大問Ⅰは小問3問で「場合の数と確率」、「整数」、「微分法・積分法」、「ベクトル」、「2次関数」、「図形と計量」などすべての分野から出題されている。

小問と言っても、分量が多いので、大問といえるかもしれない。解答の際、時間配分に注意が必要である。

(枠内の右下にB5サイズのページ数と解答枚数を掲載しています)

大問Ⅱは経済関係や日常の内容で出題されることが多く、解法としては、「2次関数」、「場合の数と確率」、「データの分析」、「指数関数」、「対数関数」、「数列」、「微分法・積分法」を利用する。相変わらず、分量は多い。題意を把握する読解力とポイントを抑える理解力を要するので対策は欠かせないだろう。

(枠内の右下にB5サイズのページ数と解答枚数を掲載しています)

大問Ⅲは例年通り、大問Ⅰ、Ⅱで出題されなかった分野から出題されている。「場合の数と確率」、「微分法・積分法」、「図形と方程式」、「整数」が頻出である。

大問Ⅲの問題量は大問Ⅰ、Ⅱと比較して少ないが、計算量が多いので、素早く解く練習は欠かせない。

ゴシックは結果のみ、他は記述式

試験時間 80分

数学ⅠAⅡB、C(ベクトル)	I	II	III
全学統一 (文系) 2 / 1	[1]場合の数(5人の並び方) [2]2次関数、対数関数、三角関数(定数を含む3つの関数の解と係数の関係) [3]平面ベクトル(内積、三角形の面積、垂線の交点の位置ベクトル) 2ページ、19個	数列(漸化式)、対数関数  借入れ金の返済 複利法の計算  3ページ、10個	確率(3人じゃんけん、勝った状況によって与える得点を変える、3人の得点条件による確率)
全学統一 (文系) 2 / 2	[1]データの分析(降水量のデータ、標準偏差、相関係数、ばらつきの場合) [2]指数関数(2種類の関数の関数値、連立方程式) [3]2次関数(絶対値を含む関数のグラフ、方程式の解の個数) 積分法(放物線と直線で囲まれた部分の面積) 3ページ、23個	確率(反復試行の確率、最大の条件)  マイバッグを持参する人の割合が定数が含まれた式で定義される。レジ袋の価格を含めた関係式から条件を考える。 2ページ、16個	空間図形(球面と直線の位置関係、2交点と中心を頂点とする三角形の面積)
全学統一 (文系) 2 / 3	[1]図形と計量(面積、面積比) 図形の性質(相似、4点が同一円周上) [2]図形と方程式(絶対値、定数を含む1次不等式、ひし形の領域、格子点) [3]場合の数(8個の異なる整数を4個ずつに分け、各種条件) 3ページ、21個	微分法(3次関数、最大値) 積分法(定積分計算)  生産にかかる費用を生産量の3次関数で表す。問題が生じたときの対応費。 2ページ、11個	図形と方程式(円と直線の位置関係、囲まれた図形の領域、点の関係式の条件を満たす値の範囲) 微分法(置換による3次関数の最大最小)
全学統一 (文系) 2 / 4	[1]確率(取り出したボールの色で表が出る確率が異なるコインが決まる) [2]図形と方程式(垂直二等分線、円と直線の位置関係、接する条件) [3]平面ベクトル(内分点や交点の位置ベクトル) 3ページ、19個	データの分析(平均値、第3四分位数、四分位範囲)  バス停で待つ乗客数。 乗り越し、優先を考慮してデータを作成。 3ページ、12個	整数(指数表記の整数の約数の個数) 対数関数(桁数、最高位数)
学部個別配点  2 / 7	[1]確率(取り出した玉の色で得点が決まり、2回目は1回目の色によって得点異なる) [2]対数関数・三角関数(等式または不等式を満たす2実数の組) [3]複素数と方程式(剰余の定理) 3ページ、19個	1次関数・確率(反復試行)  販売数、発注数、送料、保管費用から品物の発注パターン別の経費を計算 需要量が3種類のときの確率 2ページ、13個	図形と計量(円に内接する四角形、面積比と辺の比)

## 関西大学(理工系学部)

〔コメント〕 解答形式は大問Ⅳの小問集合と他1問または2問が結果のみ、他は記述式である。数学Ⅲの微分法・積分法は必出であることは例年通りであり、ベクトル、数列、複素数平面、極限がよく出題されている。数学Ⅲの積分法で扱う関数は偏りなく三角関数、指数関数、対数関数、無理関数であるので、過去問対策する際に注意したい。また、場合の数と確率は小問集合の大問Ⅳで出題されていたが、昨年度から大問で出題されるようになった。さらに、関数のグラフの概形を図示させる問題が出題されているので、その対策も重要である。

大問Ⅳの小問集合は例年大問Ⅰ～Ⅲで出題されなかった分野から出題されている。小問にもかかわらず、例年、頭の切り替えが難しいのだろうか、正答率が高くないのが気になるところである。

	2025年度		2024年度		2023年度	
	大問	分野	大問	分野	大問	分野
全学日程1 理科1科目 選択方式 理科設問 選択方式 2/2	I	微分法・積分法(数Ⅲ)、指数関数	I	積分法(数Ⅲ)、三角関数	I	微分法・積分法(数Ⅲ)
	II	確率	II	複素数平面	II	複素数平面、極限
	III	三角関数、数列、極限	III	空間ベクトル	III	平面ベクトル
	IV	小問集合【4問】 (複素数と方程式、平面ベクトル、微分法(数Ⅲ)、2次関数)	IV	小問集合【5問】 (式と証明、確率、積分法(数Ⅲ)、2次関数、整数の性質)	IV	小問集合【5問】 (複素数と方程式、確率、三角関数、式と曲線、整数の性質)
全学日程2 理科設問 選択方式 2/5	I	微分法・積分法(数Ⅲ)、対数関数	I	微分法・積分法(数Ⅲ)、指数関数	I	数列、積分法(数Ⅲ)、極限
	II	数列	II	平面ベクトル	II	数列
	III	空間ベクトル	III	極限	III	微分法・積分法(数Ⅲ)
	IV	小問集合【4問】 (図形と方程式、図形の性質、複素数平面、三角関数、極限)	IV	小問集合【4問】 (確率、複素数と方程式、三角関数、式と曲線)	IV	小問集合【4問】 (図形と計量、確率、空間座標、図形と方程式)
全学日程2 理科設問 選択方式 2/7	I	複素数平面	I	微分法・積分法(数Ⅲ)、無理関数	I	微分法(数Ⅲ)
	II	三角関数、積分法(数Ⅲ)	II	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数	II	整数の性質
	III	空間ベクトル	III	確率、数列	III	複素数平面
	IV	小問集合【5問】 (対数関数、極限、数列、整数、数列、複素数平面、確率)	IV	小問集合【5問】 (整数の性質、図形と方程式、複素数平面、空間ベクトル)	IV	小問集合【5問】 (2次関数、極限、積分法、数列、三角関数、整数の性質)

### 注目分野



確率



ベクトル



数列



複素数平面



数学Ⅲ









三角関数

# 関西学院大学(理工系学部)

**【コメント】** 解答形式は大問1～3が結果のみ、大問4が記述式である。出題分野は文系学部同様ほぼ固定されている。3日程の大問2～4の9問のうち、微分法・積分法(数Ⅲ)から3問、数学Ⅱ(図形と方程式、三角関数)と数学A(場合の数と確率)と数学B(数列)、数学C(ベクトル、複素数平面)の6分野から5問または6問出題されている。微分法・積分法(数Ⅲ)で扱う関数は日程によって対数関数、指数関数、三角関数、分数関数と分けられている。大問2～4は小問数が多いときは6問、少なくとも3問あり、分量が多いと思われるかもしれないが、誘導が丁寧である。苦手分野がなく、計算ミスに気をつければ対応できるだろう。この大問2～4で出題されなかった分野は大問1の小問集合で出題されているので、対策は全分野に対応できるよう苦手分野を作らないことだろう。

	2025年度		2024年度		2023年度	
	大問	分野	大問	分野	大問	分野
全学部日程 2 / 1	1	小問集合【4問】(確率、指数関数、式と証明、複素数平面)	1	小問集合【3問】(式と証明、確率、数列)	1	小問集合【3問】(式と証明、対数関数、確率)
	2	数列	2	三角関数	2	図形と方程式
	3	三角関数、積分法(数Ⅲ)	3	空間ベクトル	3	微分法・積分法(数Ⅲ)
	4	平面ベクトル	4	微分法・積分法(数Ⅲ)、対数関数	4	複素数平面
全学部日程 2 / 2	1	小問集合【4問】(無理関数、数列、三角関数、高次方程式)	1	小問集合【3問】(平面ベクトル、式と証明、複素数平面)	1	小問集合【3問】(場合の数、空間ベクトル、複素数平面)
	2	場合の数	2	確率、数列	2	数列
	3	図形と方程式	3	図形と方程式	3	三角関数
	4	微分法・積分法(数Ⅲ)、対数関数	4	微分法・積分法(数Ⅲ)、指数関数	4	微分法・積分法(数Ⅲ)
英数日程 2 / 5	1	小問集合【4問】(複素数平面、空間ベクトル、数列、極限、高次方程式)	1	小問集合【3問】(2次関数、場合の数、対数関数)	1	小問集合【3問】(複素数と方程式、図形と方程式、式と証明)
	2	三角関数、2次関数	2	数列、極限	2	平面ベクトル
	3	確率	3	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数	3	確率
	4	微分法・積分法(数Ⅲ)、分数関数	4	平面ベクトル	4	微分法・積分法(数Ⅲ)

## 注目分野








	場合の数と確率		ベクトル		数列		複素数平面
	数学Ⅲ		図形と方程式		三角関数		

# 同志社大学(理工系学部)

〔コメント〕 解答形式は大問Ⅰの中間2問が結果のみ(解答個数は5個ずつ)、大問Ⅱ～Ⅳが記述式である。出題分野は今まではほぼ固定されており、大問Ⅰでは場合の数と確率、複素数平面、大問Ⅱ～Ⅳでは微分法・積分法(数Ⅲ)から1題または2題、ベクトルと数列で1題または2題であったが、今年度はベクトルは大問Ⅰに移動して、ベクトルではなく図形と方程式がⅡ～Ⅳに登場した。図形関係であることは変わらない。これらの分野が重要であることに違いはない。大問Ⅰでは「確率漸化式」、「複素数と図形」が頻出であり、解答個数が常にそれぞれ5個ずつであることでレベルが低くないことがわかる。大問Ⅱ～Ⅳではどの問題も設問数が多く誘導が丁寧であるが、その誘導は(1)⇒(2)⇒(3)⇒(4)ではなく、(1)⇒(2)(3)⇒(4)の場合もある。これは(3)は(2)から導かれるのではなく、(2)⇒(4)の(4)のための誘導であるので、その意図に気が付かなければ混乱を招くこともある。また、計算量が多く特に不慣れであろうと思われる三角関数の積分法が最頻出であるため時間内に完答するにはハードルが高いといえる。

	2025年度		2024年度		2023年度	
	大問	分野	大問	分野	大問	分野
全学部 日程 2/4	I	中間2問(確率、空間ベクトル)	I	中間2問(確率、数列、複素数平面)	I	中間2問(確率、数列、複素数平面)
	II	数列	II	平面ベクトル	II	積分法(数Ⅲ)
	III	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数	III	図形と方程式、微分法(数Ⅱ)	III	空間ベクトル
	IV	微分法・積分法(数Ⅲ)、指数・対数関数	IV	積分法(数Ⅲ)、三角関数	IV	微分法(数Ⅲ)
学部個別 日程 2/7	I	中間2問(確率、数列、複素数平面、2次曲線)	I	中間2問(確率、数列、複素数平面)	I	中間2問(確率、複素数平面)
	II	図形と方程式、式と曲線	II	積分法(数Ⅲ)、指数関数	II	平面ベクトル、数列、極限
	III	微分法・積分法(数Ⅲ)、指数・三角関数	III	積分法(数Ⅲ)、三角関数	III	数列、三角関数
	IV	不等式の証明、数列	IV	空間ベクトル	IV	微分法・積分法(数Ⅲ)
学部個別 日程 2/10	I	中間2問(確率、数列、複素数平面)	I	中間2問(確率、複素数平面)	I	中間2問(確率、数列、複素数平面)
	II	図形と方程式、2次曲線	II	数列、三角関数、極限	II	空間ベクトル
	III	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数、数列	III	微分法・積分法(数Ⅲ)、式と曲線	III	図形と方程式、極限、式と曲線
	IV	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数	IV	微分法・積分法(数Ⅲ)、三角関数、極限	IV	積分法(数Ⅲ)、極限

## 注目分野

 確率	 ベクトル	 数列	 複素数平面
 斜体 数学Ⅲ	 図形と方程式	 三角関数	



# 立命館大学(理工系学部)

〔コメント〕 頻出分野は場合の数と確率、複素数平面、微分法・積分法(数Ⅲ)であったが、複素数平面の出題が23年度、24年度は1題のみであり、今年度は見られなくなった。また、整数の出題もなくなり、立命館大学理工系学部の特徴であった微分法・積分法(数Ⅱ)と他分野との融合問題も少なくなった。かなり様子が変わったと言える。以前は他大学にはない見慣れない問題があったが、今年度は全体的に標準レベルで分量はそれほど多くはないが、まとまった感じであるという印象を抱いた。易化したとはいえないので注意したい。

頻出分野は絞れないので、どの分野もまんべんなく対策を立てることが大切である。また、標準的な問題が多いが、まだ見慣れない形式の問題が出題される可能性も残っているので、過去問対策はこの3年間の問題に目を通すことも重要である。

	2025年度		2024年度		2023年度	
	大問	分野	大問	分野	大問	分野
全学統一 (理系) 2/2	I	図形と計量、 <b>微分法(数Ⅱ)</b>	I	整数の性質、式と証明	I	2次関数、 <b>三角関数</b> 、 <b>積分法(数Ⅱ)</b>
	II	<b>微分法(数Ⅲ)</b> 、指数関数	II	<b>平面ベクトル</b>	II	<b>空間ベクトル</b>
	III	<b>数列</b> 、 <b>極限</b>	III	<b>微分法・積分法(数Ⅲ)</b> 、指数関数、 <b>極限</b>	III	<b>微分法・積分法(数Ⅲ)</b>
	IV	<b>確率</b> 、 <b>数列</b>	IV	<b>確率</b> 、 <b>数列</b>	IV	<b>場合の数</b> 、 <b>数列</b> 、 <b>極限</b>
全学統一 (理系) 2/3	I	<b>数列</b>	I	式と証明、 <b>積分法(数Ⅱ)</b>	I	<b>微分法(数Ⅲ)</b>
	II	<b>微分法・積分法(数Ⅲ)</b> 、指数・ <b>三角関数</b>	II	<b>複素数平面</b>	II	整数の性質
	III	<b>平面ベクトル</b>	III	<b>三角関数</b> 、 <b>微分法(数Ⅱ)</b>	III	図形と方程式、 <b>積分法(数Ⅱ)</b>
	IV	2次曲線、図形と方程式	IV	式と証明、 <b>数列</b>	IV	<b>三角関数</b>
学部個別 配点 2/7	I	方程式、多項式の除法	I	<b>微分法・積分法(数Ⅱ)</b>	I	<b>微分法(数Ⅲ)</b>
	II	<b>三角関数</b> 、 <b>微分法(数Ⅲ)</b>	II	<b>空間ベクトル</b>	II	<b>複素数平面</b>
	III	<b>確率</b> 、 <b>数列</b>	III	<b>三角関数</b> 、 <b>微分法(数Ⅱ)</b>	III	式と曲線
	IV	<b>空間ベクトル</b>	IV	整数の性質	IV	<b>確率</b> 、 <b>数列</b> 、 <b>極限</b>

## 注目分野

	場合の数と確率		ベクトル		数列		複素数平面
	数学Ⅲ		三角関数		(微分法・積分法)数Ⅱ		